

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	墓園計画の推進事業							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	環境課	係	環境保全係	評価票作成者	環境保全担当係長 深草 広治
1-3 総合計画における施策の体系	①節	生活環境 「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」			③基本施策	火葬場・墓地	コード	1-1-4
					④単位施策(中)	墓園の整備拡充	コード	1-1-4-2
	②項	環境保全			⑤単位施策(小)	墓園計画の推進	コード	1-1-4-2-1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	墓所を必要とする方		意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）	墓所を必要とする方に墓所を提供できるようにする。			
1-5 事務事業の内容	第二期第三工区の整備が完成し、新しい区画の墓所も提供している。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み			社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識					
	平成18年度	墓園特別会計の資金計画の見直し作業を実施し、効率化を図った。		墓園基金の運用益による維持管理は、金利が低いため困難である。	高齢化社会の到来により、墓所を必要とする者が増大しつつある。						
	平成19年度	"		墓園の残数が少なくなり、次期造成工事の計画が必要になった。	"						
	平成20年度	墓園特別会計の今後の方針を検討した。		"	"						
	平成21年度	22年度設計・23年度工事で実施計画された。		"	遠隔地での就職、核家族化で墓所を必要とする者が増大。						
	平成22年度	第二期第三工区の実施設計を行った。									
	平成23年度	第二期第三工区の施工を行った。									
	平成24年度	第二期第三工区の販売を開始した。									
	平成25年度										
平成26年度											
平成27年度											

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名			前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明				
	年間の墓所販売数(基)			50(基)	60(基)	墓所の残数により墓園事業の状況を示す。(平成18年度当初残数212ヶ所)				

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a (基)	60(基)	52(基)	51(基)	43(基)	19(基)	18(基)	87(基)			
	直接事業費 b (千円)	0	0	0	0	4,200	113,894	0			
	人件費 c (千円)	2,680	2,669	2,649	2,742	4,699	4,602	4,484			
	合計コスト d (b+c) (千円)	2,680	2,669	2,649	2,742	8,899	118,496	4,484			
単位コスト d/a (千円)	1基当たり 44.7	1基当たり 51.4	1基当たり 51.9	1基当たり 63.7	1基当たり468.4	1基当たり6,583	1基当たり51.5	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 → 活動実績…墓所販売数。直接事業費…墓園の設計コンサルタント料・建設工事費の総額。人件費…職員0.75人分 43/60=71.6

2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		後期目標値に対する達成度(%)	60	52	51	43	19	18	87		
		100.0	86.7	85	71.6	31.7	30	145			

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)	単年度担当課評価	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		A	A	A	A	A	A	A			

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 - B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 - D : 事務事業の廃止が相当

- 判断の基準
- ①必要性(必要な事務事業であるか)
 - ②公共性(公が実施する意味があるか)
 - ③妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - ④効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - ⑤有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - ⑥市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	単年度	今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
		平成18年度	墓所の残数が少なくなったので、次の墓園建設計画を明確化する必要がある。	現在の保有墓所を完売させる。
平成19年度		実施計画に次期墓園造成工事をあげた。	〃	予定していた数の墓所を販売できた。
平成20年度		財政当局に造成工事の予算を請求した。	引き続き造成工事の予算化を要求する。	計画していた区画数の墓所の販売ができたが、残りの墓所がわずかとなった。
平成21年度		設計料が予算を計上できた。	区画の面積と需要を検討する。	予定以上の販売で、残数が4㎡・30区画以下となった。
平成22年度		第二期第三工区の造成工事を実施する。		
平成23年度		第二期第三工区の造成工事後の改修計画を立案する。		
平成24年度		第二期第三工区内の新しい区画の販売を開始した。		
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果	単年度	結果	審査会による改善方向の指示
		平成18年度	A
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	A	継続して事業を進めること。	
平成22年度	A	継続して事業を進めること。	
平成23年度	A	継続して事業を進めること。	
平成24年度	A	継続して事業を進めること。	
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			